



## 海外 稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。  
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

### 会長メッセージ

アジア最後のフロンティアといわれるミャンマーですが、フロンティアというだけあって、なかなか他国では味わうことのできないチャレンジに直面することがしばしばあります。そのような環境の中で「群れない早稲田も、ミャンマーという特殊な環境で相互扶助の精神を持ってお互いに協力していこう」という思いで、2014年にミャンマー稲門会を設立しました。  
2011年以降、ミャンマーの民主化の動きが加速するにつれて、日系企業の進出も現在では300社を超え、稲門会の会員も60人を超える規

模になりました。稲門会のメンバーはそれぞれ多方面で才能を遺憾なく発揮し、非常に頼もしく感じられます。  
ミャンマー稲門会には20代から80代という非常に幅広い世代の会員がいますが、いざ杯を交わすと、すぐに早稲田らしい雰囲気になり、早稲田で学んだ喜びを改めて感じさせてくれます。  
ミャンマー稲門会での活動が早稲田、日本、ミャンマーをつなぎ、今後も発展していくことを切に願っています。  
寺坂哲郎(1983年政経)

### 会員からのメッセージ

ヤンゴンに来て約1年が過ぎました。初めての海外生活に慣れないことも多い中、公私ともに稲門会の皆さまにお世話になっており、ヤンゴンの土地でも「WASEDA」のパワーを感じています。日本では出会えなかった先輩たちと交流する中で、稲門会はいつも学びの場となり、自分ももっと頑張らなければとモチベーションが上がります。  
ミャンマーは人との結びつきを大事にする国です。私も稲門会の皆さまはもちろんのこと、さまざまな方との縁を大事にしていきたいと思う日々です。  
伊藤孝倫(2010年商学)

一印象です。ヤンゴンの街の喧噪とは裏腹に、控えめで素朴な人たち、曖昧性を許容する文化は、これまでに体験した欧州の文化とは違い、何か親近感を覚えます。  
ミャンマーへの赴任は自分にとって運命だったのか、ビルマ戦線で亡くなった先祖に思いを巡らせることもあります。急速な変化とともに前へ進んでいく一方で、過去へ思いをはせる時間。そんなミャンマーでのセンチメンタルジャーニーは、しばらく続きそうです。  
川村 大(1998年政経)

どこか40年前の日本を見ているような風景。2014年2月に訪れたミャンマーの第懇親会

あれ!? ヤンゴンにはお墓がない! シェダゴン・バヤ(英語ではバゴダ)をはじめとして信仰の証しとして建立されたバヤ(仏塔)はたくさんありますが、これはお墓ではありません。火葬場では骨を残さずに灰になるまで火葬し、誰もその灰を持ち帰りません。中には、火葬場にご遺体を運んだ後、火葬に立ち会いもせずに帰ってしまう遺族もいます。  
ミャンマー全体を見渡せば立派なお墓のある地域もあります。イスラム教の多いインド系ミャンマー人の方々や中国系の方々には亡くなるとお墓に埋葬します。  
山口 哲(1972年商学)

### ミャンマー稲門会について

2014年に設立されたばかりのミャンマー稲門会ですが、現在は60人を超える会員数となっており、ミャンマーにおける日本の大学の校友会としては最大勢力になっています。近年のミャンマーの民主化、2015年の民主政権発足を受けて、ここ数年、日本企業の現地法人や駐在員事務所の数が非常に増えてきています。その中でも校友の多方面での活躍が評価されているのは、発展途上のミャンマーにおいて、校友への期待が大きいからこそだと思います。  
定期的開催される懇親会には20代から80代まで非常に幅広い世代の会員が集まり、会の最後には校歌を歌います。また、年に一度、早慶でのゴルフ対抗戦やボーリング対抗戦が開催され、早稲田が勝つと、肩を組み合いながら『紺碧の空』を熱唱します。  
発展途上のミャンマーにおいてはインフラも

未整備なところが多々あり、容易に物事を進められる環境にはありません。しかし、校友のネットワークを通じて、困ったときはお互いに助け合いながら活動しています。  
羅 和益(2003年商学)



ヤンゴン三田会との合同懇親会

### ミャンマーの魅力

日本企業が質の高い豊富な労働力を確保できる、東南アジアの国ミャンマーは、地政学的にも大きな市場の中心に位置しています。昨年未だに発足した「ASEAN経済共同体(AEC)」の10カ国は人口約6億2,000万人、域内総生産約2.5兆ドルの大経済圏です(EU28カ国は人口約5億1,000万人、域内総生産約16兆ドル)。2018年には、ラオス、カンボジア、ミャンマー域内の関税が撤廃されることから、水平分業と域内貿易の活発化が約束されています。さらにミャンマーは、中国(人口約14億人、GDP約11兆ドル)、

インド(人口約12億1,000万人、GDP約2兆ドル)、バングラデシュ(人口約1億6,000万人、GDP約0.2兆ドル)と、合計人口約27億7,000万人、GDP約13兆ドルの国々と国境を接しています。(数字は外務省ウェブサイトより)  
また、日本語と語順が同じ言語や満月を祝う習慣を持つ、心優しく敬虔なミャンマーの人々は、ミャンマーを訪れる日本人に深い安らぎを与えてくれます。  
山口 哲(1972年商学)



ミャンマー最大都市ヤンゴンは急激に発展していますが、まだ緑も多く残っています。

